

第6章 地域の宝物の保存・活用に関する将来像と方針



穂高神社式年遷座祭

6.1 目指す将来像

当市の歴史の積み重なりと文化との関係を紐解くと、厳しい自然の条件のもと暮らしの礎となる環境を先人が創り出し、これをお互いの縁で守りながら、知恵や技術を巧みに駆使して様々な糧を生み出して次世代に継承してきた流れが脈々とあり、その証として「安曇野の風景」があることに気づきます。

計画作成にあたり実施した市民へのアンケート調査では、将来に受け継ぎたい当市らしい風景の構成要素の上位五つは、田園風景（水田・りんご畑等）、北アルプス・東山、河川・湧水・拾ヶ堰等の水、屋敷林・森林等の緑、道祖神でした。また、当市の暮らしや文化を反映し、受け継がれている大切なものとして、祭り、道祖神、神社が挙げられています。このように当市の風景は、多くの市民が五感で感じ取ることができ、内外にも誇れる地域の宝物です。

当市の歴史文化を反映するこれら地域の宝物をこれからの時代に活かし、50年、100年先に向けて継承していくには、誇れる「安曇野の風景」を切り口に、これを育んできた「知恵」と「技術（わざ）」と「縁」を時代に合わせながらより多くの人を受け継いでいくことが大切です。

そのためには、急速に変わりゆく社会の中であっても、その変化にただ流されることなく、より多くの市民が少し立ち止まって、「安曇野の風景」を意識し、この中に育まれてきた暮らしの文化を見つめ直すきっかけづくりが重要となります。その上で、地域の宝物を時代に合わせつつ、賢く取り入れ活かすことに取り組んでいく流れを生み出し、大きな潮流へと育てていくことを目指します。

以上の観点に立ち、本計画で目指す当市の地域の宝物の保存・活用の将来像を次のように定めます。

**誇れる風景『安曇野』を育む
「知恵・技術（わざ）・縁」を未来につなぐ**



長峰山からの当市の眺め

市民アンケート調査から 「地域の宝物」、その継承の重要性についての市民意識

計画作成にあたり、令和6年（2024）6月に「地域の宝物」の内容やその認識・関わりの程度、将来必要な取り組みへの意向等を把握することを目的に、18歳以上の市民を対象とし、無作為抽出の上、郵送で調査票を2,000通発送し、郵送又はWEBにより回答していただきました（回答数569件）。

『安曇野らしい風景』や『歴史文化を反映する』大切なものとは？

安曇野らしい風景の構成要素 未来に伝え残したいもの

■ 田園風景・水田・りんご畑	56.1%
■ 北アルプス・東山	41.1%
■ 河川・湧水・拾ヶ堰	39.4%
■ 屋敷林・森林	23.6%
■ 道祖神	7.6%
■ 古民家・美術館・土蔵	6.2%
■ 地域の神社・仏閣	2.3%等

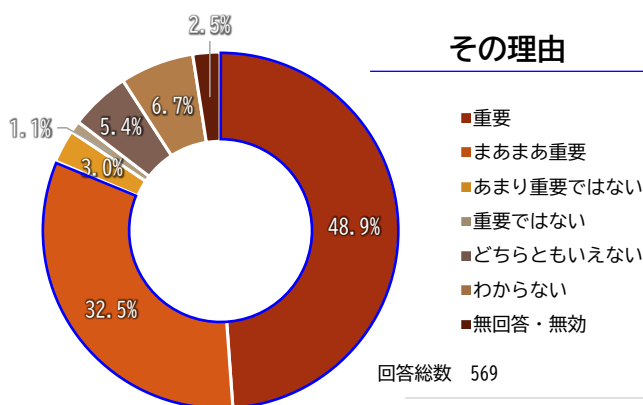
3つまで記入可(自由記述)
回答総数569に対する比率

安曇野のくらしや文化を反映し、 受け継がれている大切なもの

■ 祭り	41.7%
■ 道祖神	22.7%
■ 神社	21.2%
■ 田園風景、わさび田	19.0%
■ 三九郎	11.8%
■ 拾ヶ堰	4.7%
■ 天蚕	3.1%
■ 屋敷林	2.2%
■ 湧水	2.2%等

3つまで記入可(自由記述)
回答総数 322に対する比率

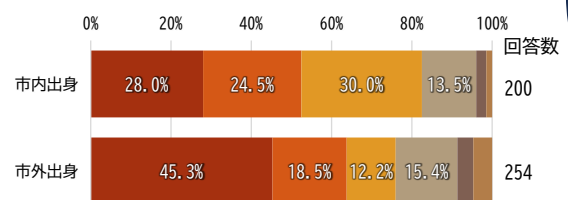
「地域の宝物」を未来の安曇野に 継承していくことをどう思いますか？



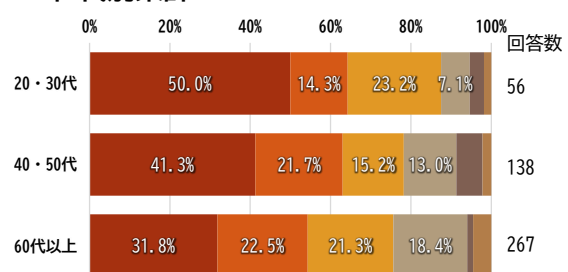
「暮らす空間の価値と魅力を高める」が最多！

「地域の宝物」の継承を重要(まあまあ重要も含む)と考える理由は、「暮らす空間の価値と魅力を高める要素だから」が37.1%と最も多い結果となりました。また、若年層とUターン者、移住者では上記の理由が多く、高齢者や市内で生まれ育った人では「地域の人と人をつなぐものだから」が多くなっています。

居住歴別



世代別集計



- 暮らす空間の魅力と価値を高める要素だから
- 地域の人と人をつなぐものだから
- 育った土地への愛着を高めるものだから
- 先人たちの知恵や苦労を伝えるものだから
- その他
- 無回答・無効

6.2 基本方針

「誇れる風景『安曇野』を育む「知恵・技術（わざ）・縁」を未来につなぐ」ために、その担い手となる人たちの意識や行動を念頭に置きつつ、実現プロセスを想定して、以下に将来像実現に向けた基本方針を定めます。

基本方針1 地域の宝物を知り、関わる

多くの市民が将来に残したいと考える“誇れる風景『安曇野』”を構成する様々な要素は、国内有数の2,500m級の山々とその山麓の自然の営み、そして先人の知恵や技術が融合して生まれてきた「地域の宝物」です。その成り立ちや先人の様々な苦労を知ること、当たり前と感じている風景を見る目も変わります。

市民にこのような気づきや発見を促すことができるよう、地域の宝物の成り立ちや人の関わりに着目した基礎的な調査を進め、その成果を効果的に伝え、理解する機会を増やし、将来像実現に向けた土台をつくります。

基本方針2 地域の宝物の価値を実感しながら守る

田園集落では各所で道祖神、堰、耕作地、古民家※、屋敷林等がみられ、祭り等も受け継がれてきています。また、市街地でもその一部や痕跡が多く残り、これまで暮らしの中で育まれてきた知恵や技術、暮らす人々を身近に感じ取る場が各所にあります。

一方、当市の将来を担う年齢層の30～50代の多くは、市外で生まれ、この地に新たに移り住んできた方々です。

このような暮らしの環境だからこそ、地域の宝物をただ見て知ることにとどまらず、その維持や管理等に関わる実体験をし、その価値も理解しながら継続して参加する流れを生み出し、新しい人の縁も育みながら、より多くの地域の宝物を継承していくことが大切です。集落や学校等の生活に身近な様々な単位で、より多くの市民が価値を理解・実感する機会と地域の宝物の保存が連動する流れを生み出す取り組みを推進します。

基本方針3 地域の宝物を受け継ぎ育てる

暮らしに身近な空間に地域の宝物が豊富にみられる当市ですが、人口の社会増も多く、生活様式も急速に変化する時代になり、地域の宝物に対する市民意識も多様化が進んでいます。これまでの手法だけでは、地域の宝物の持続は難しいと言わざるを得ない状況です。

一方で、過去から続く祭りや生産・生活に関しても、時代の変化と外部からの知恵を受け入れながら、現在に至っている側面もあります。一例として、市の指定文化財である「鐘の鳴る丘集会所」は、県外の芸術系の学生の学びや創作のフィールドに変化し受け継がれています。

このような流れを受け、地域の宝物の受け継ぐべき価値を意識しながら、市内外の人と人の縁を活かして知恵を出し合い、時代に合わせて新たな形に育て、未来につないでいく視点をもって、将来の担い手の確保や継承のしくみづくりに取り組みます。

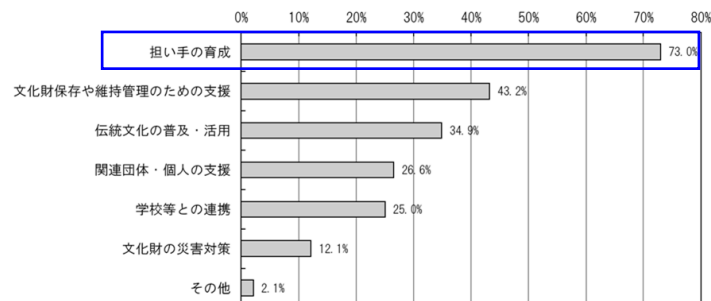
※本計画において古民家は、伝統的木造建築技術により、おおむね、昭和20年以前に建築されたものと定義します。

市民アンケート調査から 「地域の宝物」の担い手の確保・育成についての市民意識

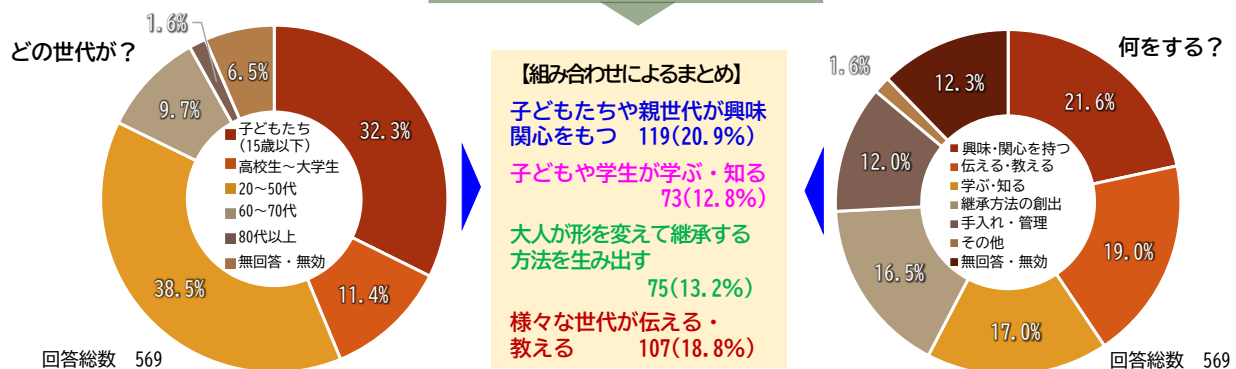
「地域の宝物」の担い手の確保・育成

当市で令和3年（2021）に実施した市民意識調査では、市民の約3/4の方々が地域の伝統や文化の継承には「担い手の育成」が重要と考えられています。

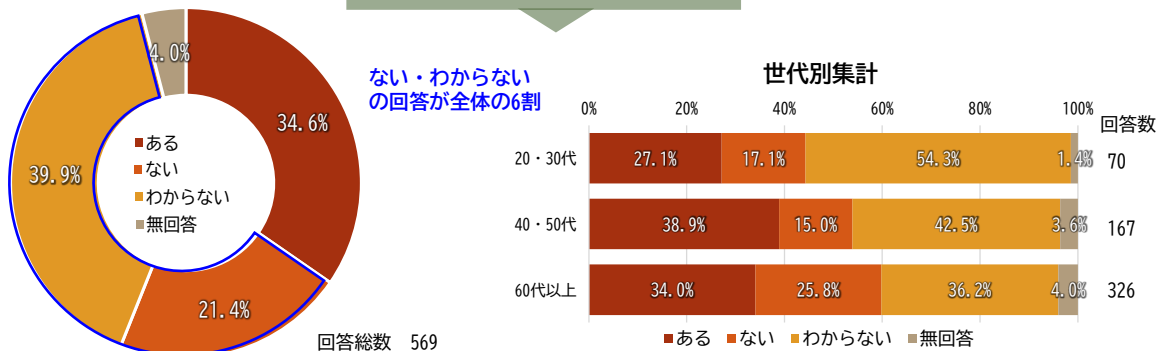
図表 101 地域の伝統や文化を守っていくために力を入れるべき取組



どの世代が何をすればよいか？



歴史や文化を伝える活動のうち、自身の関与が可能と思うことの有無



「地域の宝物」に興味・関心を持った時期

30～50代とする人が約半数。市職員で小中学生と回答する人の比率が高い傾向がみられます。

問C 6 -①	※択一回答	回答数	回答率(%) ※選択肢順	【比較】市職員		小学生の頃の居住地			
				回答数	回答率(%) ※選択肢順	現在と同じ	市内別地区	県内	県外
1	小中学生	80	19.2	51	32.7	39.3	25.7	8.2	5.0
2	高校・大学	15	3.6	15	9.6	5.1	4.3	2.7	2.5
3	20代	36	8.6	25	16.0	9.4	14.3	8.2	3.8
4	30～50代	187	44.8	61	39.1	31.6	31.4	52.1	63.8
5	60代以上	80	19.2	4	2.6	12.0	22.9	23.3	16.3
	無回答	19	4.6	0	0.0	2.6	1.4	5.5	8.8
	問C4で1～2の合計	417		156		117	70	146	80

基本方針1 地域の宝物を知り、関わる

知り、関わる観点からの課題

	課題	
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が将来も受け継ぎたいと考える「安曇野の風景」の構成要素が、急速に変化する生活様式のもとで、徐々に消失する傾向にある。また、過年度調査からの現況調査等が未実施である。 ・文化的景観や生業に関連する民俗文化財、明治時代以降の近代化とともに生まれ失われつつある地域の宝物の把握及び詳細調査が十分に行われておらず、暮らしと関わりの深い地域の宝物に対する市民の認識や理解が進んでいない。 ・社会の変化が著しい中、地域の宝物の普遍的な価値を見出す必要がある。 ・旧町村ごとに異なる視点で指定されてきた文化財を合併時にそのまま引き継いでおり、旧町村間での種別の指定方針の相違を検証する必要がある。 	<p>地域の宝物の把握と追跡が十分ではない</p> <p>地域の宝物の価値の調査と市民の理解が進んでいない</p>
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・美術工芸品、建造物等への市民の関心は祭りや道祖神、自然環境等に比べて低い。それぞれの成り立ちや価値の理解につながる発信が十分にできていない。 ・地域の宝物の保存継承の重要性は認識しつつも、日々の暮らしの中でこれらとの関わりの薄い市民が多く、身近なものとして伝わる発信が必要である。 ・新市立博物館は、構想策定から10年ほど経過しており、現状に合わせた見直しが必要である。 ・民俗文化財の調査の蓄積が近年増えてきているが、活かすための準備が整っていない。 	<p>地域の宝物と市民との接点が限定的</p>

現在進行中の関連事業

■ 新市立博物館構想

「安曇野市新市立博物館構想」は、平成27年度に策定された既存の博物館等施設の統廃合と、新市立博物館の方向性を示した構想です。

構想で提起された内容を実現可能なものとしていくため、現在、整備方針や既存博物館施設の統廃合について検討を進めています。

■ 市誌編さん事業

当市では令和2年度より「安曇野市誌」の編さんに向け方針を定め、同年に民俗、令和4年度に考古、令和6年度に自然部会が立ち上がり、各分野において専門調査委員を委嘱・任命して調査執筆を進めています。

基本方針1 地域の宝物を知り、関わる

★方針1-1 身近な地域の宝物を掘り起こす

市民が高い関心をもつ「安曇野の風景」を切り口として、これを形作る様々な地域の宝物を掘り起こし、その実態や過去からの変化の追跡、誕生の背景や価値等を明らかにするための現況調査を進めます。併せて、文化的景観や生業に関連する民俗文化財、明治時代以降の近代化とともに生まれ失われつつある地域の宝物の把握及び詳細調査を進めます。これらを通じて多くの市民が身近なところから地域の宝物の実態や当市の歴史文化を知るための土台を整えます。

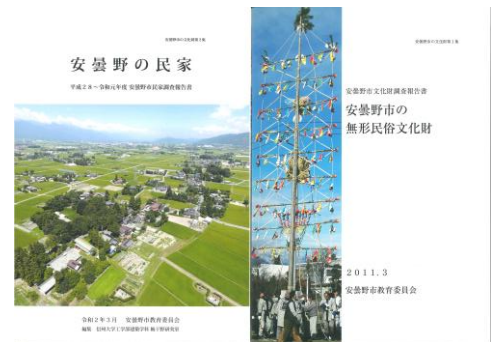


「安曇野の風景」の一例
(民家、屋敷林、水田が一体となった景観)

★方針1-2 地域の宝物の価値を把握し伝える

急激に変化する社会や生活様式の変化も勘案しながら、過去の調査研究に加えて新たな地域の宝物の把握の成果をもとに、地域の宝物の価値を的確に見出すことに取り組みます。

そのために、日々の調査研究や現在進行中の市誌編さんの事業を基軸に据えて、その成果のとりまとめや市民に向けたわかりやすい発信に努めるとともに、これまでの旧町村の枠組みを超えた地域の宝物の価値付けのあり方について検討を進めます。



過年度に発行した調査報告書

★方針1-3 市民と地域の宝物との接点をつくる

市内に9施設ある市立の博物館・美術館・記念館等は、わかりやすく地域の宝物の価値や存在を伝える機能を有します。日頃、地域の宝物との接点が少ない市民が増える中であって、この特色を有効に活かすため、将来的な施設の具体像を定める新市立博物館の整備構想の見直しを進め、これらの施設で市民が地域の宝物を学び、知り、関わる楽しみを発見する機会や運営体制の充実の実現につなげます。併せて、これまで蓄積してきた調査成果を有効に活用し、関心高揚のための発信に努め、地域の宝物と市民との接点をつくります。



博物館スタッフによる解説

基本方針2 地域の宝物の価値を実感しながら守る

「価値を実感しながら守る」観点からの課題

	課 題
体験機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ミュージアムや博物館で主催する親子体験等は、地域の宝物への理解を深める好機となっているが、より多くの機会を提供できる体制が整っていない。地域住民や学校等の多様な主体・世代が無理なく持続的に関わることのできる継承方法や仕組みが必要である。 ・市外出身の方が地域の宝物の存在や重要性を地域の役員等に就いて初めて知ることが多く、その導入段階となるような理解や体験の機会が十分には確保されていない、または、周知されていない。
保存管理	<ul style="list-style-type: none"> ・山間部の人口減少の顕著な地区では、仏堂の彫刻等の盗難の被害が発生している上、土砂・雨水災害の頻発、地震の発生等により、文化財の破損や滅失のリスクが高まっており、対策が必要である。 ・個別の文化財の保存活用計画の作成実績は、記念物2件に限られており、作成をさらに進める必要がある。 ・有形文化財の所有者の管理経費の負担や、保存に関する知識や理解の不足を補う措置の充実が必要である。 ・人口減少の顕著な地域では、地域の宝物の劣化状況の把握や修復の必要性等の判断について、これらを支える取組を進める必要がある。 ・暮らしの様式が変化しており、この流れに合わない古民家や屋敷林等は急速に失われつつある。 ・現在の生活様式や価値観と離れた存在にある講等の小規模な集まりの行事を行う地区は減少しており、その存在も忘れられつつある。

地域の宝物に関する体験の機会が限定的

社会の変化や災害に伴う地域の宝物の消失リスクの増大

地域の宝物の維持と現在の生活様式とのギャップへの対応

現在進行中の関連事業

子ども達の芸術・文化への感受性を高める取り組み

当市では市内のミュージアムで連携し「安曇野市ミュージアム活性化事業」として、安曇野ギャラリートークリレー、あづみの学校ミュージアム等、市内の様々な施設における活動を公立・私立の枠を超えて取り組んでいます。また、文化芸術振興事業として、東京藝術大学交流事業（中学生楽器演奏指導）、こども能楽教室、ピアノ演奏アウトリーチ、ジュニアクラシックコンサート等、子ども達の芸術・文化への感受性を高める様々な取り組みを展開しています。

【あづみの学校ミュージアム】

児童や生徒が本物の作品や資料に親しみ、学ぶ機会を提供。各施設の収蔵品を市内の小中学校で展示し、鑑賞教育を行っています。



【こども能楽教室】

子どもたちに伝統芸能の素晴らしさを知ってもらうため、毎年市内小中学校で順番に開催しています。



基本方針2 地域の宝物の価値を実感しながら守る

★方針2-1 地域の宝物にふれあい体験する機会をつくる

地域の宝物を題材とした学校での総合的な学びや探究学習、地域での様々な活動の場を活かし、地域の宝物に深く関わる人から次の世代に伝えていく機会とその内容や体制の充実を図ります。

特に、地域の宝物に興味を持った人たちの理解をさらに一歩深める上で重要な、五感を通じた実体験の充実やその成果の発信により、多くの市民の日頃からの関心高揚につなげます。



小学校に美術作品等を運び込んだ鑑賞
(あづみの学校ミュージアム)

★方針2-2 様々な変化に対応して地域の宝物を守る

指定等文化財の消失や滅失、破損等のリスクの高さを勘案しながら、防犯、防火、修復等の対策のほか、個別の文化財保存活用計画の作成、管理経費の支援、保存の意義の理解促進等、多面的な対策を講じ、安全かつ確実な継承につなげます。

特に、人口減少地域で消失の危機に直面する地域の宝物の実態や今後の対応に関して、多様な主体が関わる手法の検討を進めます。



曽根原家住宅の屋根材更新のための
へぎ板の加工

★方針2-3 地域の宝物のもつ新たな価値を生み出し保つ

地域の宝物の維持と現在の生活様式との間にあるギャップを埋めていくため、現代の生活様式の中で見出されている新たな価値に調和した活用方法を模索します。

過去の利用方法の持続が困難になった古民家等で活用の余地があるものを対象に、その方法を幅広く模索し、活用につなげます。また、集落や地区単位で古くから伝わる行事の復活等、新たな工夫を生み、講じていく市民主体の活動の推進支援に取り組みます。



等々力家長屋門

基本方針3 地域の宝物を受け継ぎ育てる

受け継ぎ育てる観点からの課題

	課題
担い手確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・道祖神、神社や仏堂、関連する祭り等、個々の生活空間の近くに様々な地域の宝物があるが、これらを活用する地域活動への参加は高齢世代や地区役員等に偏っており、関心のある人材を掘り起こす必要がある。 ・所有者や継承者のみでは解決が難しい問題が多いため、関係者同士で情報交換や交流を行う機会が必要である。 ・地域の宝物の継承や活用に関わる人材の確保や育成には相応の時間と労力を要するが、これらを主導する側への継続的な支援が十分にできていない。
公開活用	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化や人口減少の進行に伴い、集落や区等の単位で営まれる祭りや行事の運営に外部の協力者を確保する動きが生まれているが、そのための労力が発生しており、新たな支援が必要である。 ・市内に多くの方が訪れるが、文化芸術等に関するコンテンツへの関心や参加頻度は低い傾向にある。交流人口の創出につながる地域の宝物の活用に向けたコンテンツの充実が必要である。 ・指定等文化財を活用してアーティストによる創作活動（アーティスト・イン・レジデンス等）が続けられているが、文化財活用の先例として活かし切れていない。 ・明科地域の過疎対策として、地域の宝物の活用も含む対策や構想等がまとめられているが、その推進体制や地域との連携は今後さらに具体化が必要である。

新たに関わる人材の掘り起こしが不十分

従来の活用体制を支え、補う仕組みや工夫の不足

交流人口創出を契機にした地域の宝物の継承策の具体化

現在進行中の関連事業

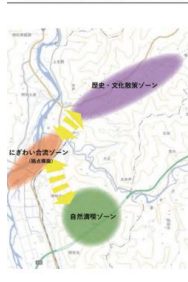
明科地域の過疎対策

明科地域は、令和2年国勢調査の結果、人口減少率等が過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法（過疎法）の要件に該当し、一部が過疎地域となり、「安曇野市過疎地域持続的発展計画」が策定されました。

この中では無形の民俗文化財の担い手不足や有形文化財の経年劣化等の課題への対応が示されています。

また、明科地域の活性化を目的に、コンパクトに様々な地域資源が集まる環境を活かして、アウトドアスポーツの拠点となる施設整備を進めていく方向性が示されています。この整備の基本構想が定められ、東山の山間地が歴史・文化散策ゾーンとして位置づけられています。

明科地域の全体ゾーニング



ゾーン名	活用できる資源	活用の方向性
にぎわい合流ゾーン	・龍門前公園・あやめ公園 ・龍川・黒川 ・新宝田水のふるさと公園 ・水田（田舎） ・自然体験交流センター「せせらぎ」 ・龍川駅周辺 ・空き家・空き地	・中心市街から上郷までウォーターフロントを築く ・リバーパーク ・地域内外の人口が利用できる憩いの場 ・情報発信・交流拠点 ・観光拠点を学ぶ・知る場
歴史・文化散策ゾーン	・田舎跡・井線跡 ・お宮公園 ・けやきの森自然園	・「東の玄関口」としての歴史文化を伝えるまちあるき
自然環境ゾーン	・高嶺山・天平の森 ・金玉池	・北アルプスの眺望と自然を楽しむ ・トレッキング、ハングライダース、パラグライダー、射撃、自然観察等 ・天平の森でキャンプ、グランピング

安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想のゾーニング

基本方針3 地域の宝物を受け継ぎ育てる

★方針3-1 地域の宝物を共に支え合う仲間を増やす

地域の宝物に関心のある人を集める効果的な情報の発信や共有、交流の機会を設けるとともに、継承に関するノウハウをもつ人材の育成、団体の連携強化等の充実を図ります。これらを通じて、地域の宝物を支えていくことに関心のある新たな人材を掘り起こし、育てる取り組みを推進し、支え合う仲間を増やします。



市民参加による博物館の活動
(豊科郷土博物館タカラ探し部)

★方針3-2 持続可能な継承に向けたしくみと体制を整える

祭りの運営や地域の神社や仏堂の彫刻等の管理等に行政だけでなく、主体的に関わる市民の有志や市民団体、専門家、企業等の関与や支援の輪が生まれ、これらが継続する仕組みや体制づくりに努めます。

特に、地域の宝物を通じて地域内外の人と人や世代間のつながりを新たに生み出す活動を支えることに重点を置き、継承者や活用に関わる人たち等のモチベーションを保ちながら、その持続性を高めていくことを目指します。



岩原山神社のオフネの曳行

★方針3-3 内外の人と地域の宝物をつなぐしかけを生み出す

当市には年間約400万人の観光客が訪れ、リピート利用者が多く、また人口の社会増も多い特色を活かし、地域の宝物と来訪者や移住者との繋がりを深めるしかけづくりを進めます。

穂高鐘の鳴る丘集会所を活用したアーティスト・イン・レジデンス等に代表される滞在を伴う創作活動の輪の拡大や、過疎が進む明科地域での地域の宝物を活用したコミュニティや交流の拡充、移住希望者向けの案内や体験の充実等を進め、関係人口・交流人口の創出に結びつく地域の宝物の活用に取り組めます。



穂高鐘の鳴る丘集会所

6.3 長期展開

本計画の第1期に相当する令和8～15年度（2026～2033）では、市民の意識や関心を惹き付ける要素やその価値をとらえ、気づきや意欲向上を促す発信の機会や場を創り出し、様々な縁が持続する仕組みづくりが特に重要です。

この点と中長期も見据えた展開の概念図を以下に整理します。50年、100年という長期を見据えて必要な措置を講じていく観点から、時間軸に沿って段階的に必要な措置を講じていきます。

<短期の措置の方向性：10～20年>

「安曇野の風景」の成り立ちや文化的な価値をより多くの人々が理解し、共有できる基盤を整える措置に力点を置きます。

<中長期の措置の方向性：20年後以降>

50年、100年先に伝えたい「安曇野の風景」を受け継ぐための行動に参画する人、関わる人が増える状況を、各世代に波及させ、主たる要素を保全・継承する動きを確かなものにしていく措置に力点を置きます。

